

事業計画書

①団体名	land down under
②事業名	Circular Cotton Project
③テーマ区分	<p>*いずれかにチェックし、指定テーマの場合は番号を記入</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 指定テーマ(番号: 5) <input type="checkbox"/> 自由テーマ</p>
④補助回数	<p>*同一事業における補助回数(年数)について、いずれかにチェック</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目(経過措置) <input type="checkbox"/> 4回目(経過措置)</p>
⑤現状及び課題	<p>繊維産地・倉敷市児島は世界的にも評価されるジーンズ産地へとなった。デニム製品を扱うブランド、それらを生産する縫製／加工工場などが無数に存在している。しかし、それらのアクターは”点で”存在、あるいは取引先仲間の閉じた繋がりだけがあり、広く企業の垣根を越えた連携は見られない。</p> <p>近年アパレル業界は世界規模で環境や人権への配慮が訴えられ、「サステナブル」や「エシカル」な業界への転換が迫られている。日本の繊維産地も例外でなく、とりわけ児島が得意とするデニム製品は、環境負荷の高いアイテムとしてしばしば批判の対象となっている。児島も、持続可能なものづくりを考えなくてはいけない。</p> <p>欧米型の大規模生産であれば、“点で”存在する各工場が、環境や人権に関する国際認証を受ければ済むが、歴史的に分業／小規模生産工場が乱立する日本の産地の場合、国際認証を取得すること自体が難しい。</p> <p>つまりは、欧米由来の国際認証に頼るのではなく、日本独自の、児島発の新しい“スタンダード”を創出していく必要がある。企業の垣根を越え、次を担う世代の職人が結束し、循環型のものづくりを築いていく必要がある。</p> <p>こうした仕組みづくりを推進するために、当事者たち(現在の工場労働者はもちろん、将来の担い手である地域の子供達まで)が環境問題やものづくりに対して根本的に理解する機会の創出が急務となる。</p>
⑥事業目的	<p>繊維産地で働く生産者が、ものづくりの本質、派生して起こる環境問題、社会問題などを深く理解し、同時に企業の垣根を越えて繋がり合うことで、産地規模で環境や人権に配慮した「持続的なものづくり」を実現させていく。</p>
⑦事業内容	<p>事業項目1 産地若者会議</p> <p>※位置づけ(狙い)、内容、受益者(対象者)、実施地域、実施方法など</p> <p>企業や取引先の垣根を越えて、生産者たちが横に繋がる機会が必要である。主に次世代を担う若手生産者を集め、産地の未来を考える時間をつくる。また、この場を通して、アパレルにまつわる環境問題、社会問題などを学ぶ。</p> <p>対象者：繊維関連従事者 ※青年会議所などと異なり、次世代経営者に限らない。</p> <p>実施地域：児島、オンライン 実施方法：オフライン会場およびオンラインでつなぐ、月1回開催 オンライン講演会</p> <p>育てたい人物(若手職人)像： 環境問題や人権問題などアパレル産業を取り巻く大きな流れに関する情報を積極的に集め、所属する企業において、能動的にアクションを起こせる者。企業の垣根を超えて連携を図り、企業単位ではなく、産地単位で物事を考えられる者。産地の未来を考え、次世代教育の重要性を理解できる者。</p>

	<p>さらに、サーキュラーコットンシステム（事業項目2）の回収拠点集めや製品化をはじめ、システム全体の今後の方向性・運営方法の検討を産地若者会議が主導し、参加者の主体性を育てるとともに、ものづくりを一貫して経験する。</p> <p>事業項目2 サーキュラーコットンシステム</p> <p>現在の服づくりは、廃棄物を出し続けている。新しいものをつくるのではなく、不要になった服＝資源を回収し、そこから創作を行える仕組みづくりを行う。</p> <p>回収場所を募り、古着デニム製品の回収を行い、選別・リサイクルを行なって再び糸を生み出す。回収拠点の募集は、産地若者会議が主体となって行う。</p> <p>リサイクル糸を使って、<u>産地若者会議</u>で製品化を行う。また一部、外部協賛企業へ糸提供し、企業負担で製品化を行ってもらう。</p> <p>協賛企業（予定）： Johnbull、TCB jeans、Setto、land down under</p> <p>最終的に完成した製品は、産地若者会議および協賛企業で「合同お披露目会」を開催し、地域PRへと活かしていく。</p> <p>対象者：繊維関連企業／個人 実施地域：備中全域 実施方法：古着回収は、備中全域を中心に、備中地域に本社を置く会社の支店などに設置。</p> <p>周知方法（予定）： 山陽新聞、倉敷とことこ、 WWD、ideas for good、Circular Economy HUB 他 （メディア等の連携を依頼する。）</p> <p>回収拠点を岡山県内にあえて限定し、「地域性」を強める。地域循環という本質を捉えた仕組みづくり／ものづくりを行うことでメディア等からの引き合いも期待できる。</p> <p>事業項目3</p> <p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応 オンラインイベントへの適宜移行を行う。</p>
⑧事業の条件及び アピールポイント	<p>先進性、先駆性、独創性 地域（倉敷／児島）として、これからの時代に合った服づくりの形を提示していこうとする流れは全国的にまだない。地域内で服の循環システムを築き上げることで、日本ひいては世界的にも先進的な取り組みになる。</p> <p>備中地域への波及効果 起点は児島そして倉敷、さらにはデニム生地を生産する井原なども含み込んだ仕組みづくりへと発展の見込みがある。また、工場のなかに眠る規格外生地の活用なども検討している。</p> <p>県民局との協働による相乗効果 ひとつのブランド(=land down under)が取り組みを先導するのでは、ブランドイメージとして協賛できないブランドが出てきたり、取りこぼしてしまう工場が生まれてしまう。県民局との協働によって取り組み自体が公共性をおび、より多くの企業を巻き込むことが可能になる。</p> <p>その他、団体の持つ専門性やノウハウ等</p>

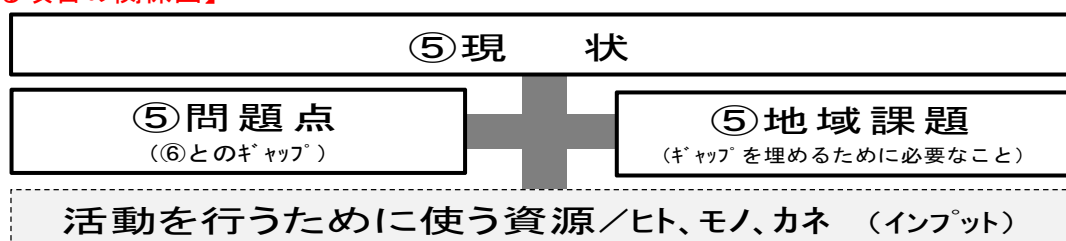
	古着回収においては、福島県いわき市で古着回収を行うNPO、古着のリサイクルに関しては、大阪のリサイクル業者や紡績工場の繋がりを有しており、一連の取り組みを実現させるノウハウをもった団体との関係がすでに構築できている。また、備中地域内の繊維関連工場との繋がりに既にたくさんあり、協力企業を募る基盤がある。																			
⑨今年度に期待される成果・効果 (短期アウトカム)	県民(対象者) 企業や取引先の垣根を越えて横の繋がりが生まれ、互いにもものづくりに関するノウハウの共有や、社会課題を考える基盤ができている。																			
	団体 産地規模で社会課題(環境/人権など)を考える基盤ができ、循環型のものづくりを経験できる(リメイク/リサイクル製品開発)。																			
	備中地域 古着デニム製品の回収拠点が各地にでき、循環型の服づくりに対する認知が広がる。																			
	県民(対象者) 環境や人権に配慮した、循環型のものづくりに対する理解が浸透し、各自の仕事へ昇華されている。また、地域にいる未来の担い手である子ども世代も、服にまつわる環境・社会問題を本質的に理解し、業界の内側から変革していこうと考える者が生まれる。																			
⑩将来的に期待される成果・効果 (中・長期アウトカム)	団体 各社が循環型の服づくりを探究し、産地全体での歩調も合っている。必要に応じて、企業同士が繋がってコラボレーションが生まれたり、リサイクルする仕組みを運用している。																			
	備中地域 古着回収の仕組みが備中県民局管内に広がり、持続的になっている。倉敷のほか井原地域も含めて、廃棄予定のサンプル生地や規格外生地の活用する仕組みができている。																			
	県民(対象者) 環境や人権に配慮した、循環型のものづくりに対する理解が浸透し、各自の仕事へ昇華されている。また、地域にいる未来の担い手である子ども世代も、服にまつわる環境・社会問題を本質的に理解し、業界の内側から変革していこうと考える者が生まれる。																			
⑪今年度の成果目標と評価指標	成果目標1 ・産地の将来を考える若者世代のコミュニティを設立し、定期的な会合を行う。 ・産地若者会議および協賛企業で「合同お披露目会」を開催し、取り組み周知を行う。																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価指標・測定方法</th> <th colspan="3">数値目標</th> </tr> <tr> <th>現状</th> <th>今年度</th> <th>(参考)R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・産地若者会議参加者 参加者で製品製作</td> <td>0人 0件</td> <td>10名 1件</td> <td>のべ30名 のべ3件</td> </tr> <tr> <td>・お披露目会参加者</td> <td>0人</td> <td>50名</td> <td>のべ100名</td> </tr> <tr> <td>・ものづくりと環境に関するレポート提出(理解度をA/B/Cで判定)</td> <td>A判定0名</td> <td>A判定5名以上</td> <td>のべ15名以上</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標・測定方法	数値目標			現状	今年度	(参考)R5年度	・産地若者会議参加者 参加者で製品製作	0人 0件	10名 1件	のべ30名 のべ3件	・お披露目会参加者	0人	50名	のべ100名	・ものづくりと環境に関するレポート提出(理解度をA/B/Cで判定)	A判定0名	A判定5名以上	のべ15名以上
	評価指標・測定方法		数値目標																	
		現状	今年度	(参考)R5年度																
	・産地若者会議参加者 参加者で製品製作	0人 0件	10名 1件	のべ30名 のべ3件																
・お披露目会参加者	0人	50名	のべ100名																	
・ものづくりと環境に関するレポート提出(理解度をA/B/Cで判定)	A判定0名	A判定5名以上	のべ15名以上																	
成果目標2 ・古着回収の仕組みを作る(回収拠点の設置など)。 ・「回収→リサイクル→製品化」のサイクルを、協賛企業を巻き込んで実現する。 ・産地若者会議にて製品化を行い、参加者が一連のものづくりを主体的に経験する機会を設けるとともに、地域PRにも活用する。																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価指標・測定方法</th> <th colspan="3">数値目標</th> </tr> <tr> <th>現状</th> <th>今年度</th> <th>(参考)R5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・デニム回収拠点</td> <td>0箇所</td> <td>30箇所</td> <td>50箇所</td> </tr> <tr> <td>・参加企業</td> <td>0社</td> <td>3社</td> <td>7社</td> </tr> <tr> <td>・CCP製品化</td> <td>0件</td> <td>4件</td> <td>8件</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標・測定方法	数値目標			現状	今年度	(参考)R5年度	・デニム回収拠点	0箇所	30箇所	50箇所	・参加企業	0社	3社	7社	・CCP製品化	0件	4件	8件	
評価指標・測定方法		数値目標																		
	現状	今年度	(参考)R5年度																	
・デニム回収拠点	0箇所	30箇所	50箇所																	
・参加企業	0社	3社	7社																	
・CCP製品化	0件	4件	8件																	
成果目標3																				

	評価指標・測定方法	数値目標		
		現状	今年度	(参考)〇年度
⑫中・長期的な成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 産地サミット毎年開催。アムステルダムなどとの連携も。 サーキュラーコットンシステムの永続的な運用。 消費者教育としてコットン畑運営を行う。 			
⑬事業展開の予定	それぞれの事業を持続的に運用できるよう収益化を目標とする。			
⑭想定される役割分担	団体			
	ワークショップ、サミット、サーキュラーコットンシステムの実行／運用。			
	県民局			
	関係調整、参画事業者の開拓			
	その他の連携・協力団体（組織・団体名：_____）			

<記入上の注意事項>

- 各項目は、簡潔かつ明瞭に記入してください。
- 「④補助回数」欄の3回目及び4回目は、経過措置規定を適用した上で、令和2年度事業に採択された事業を令和3年度以降も継続実施している場合のみ選択ができます。
- 「⑤現状と課題」欄は、事業実施の要因となる地域課題や問題点、社会的背景等について記入してください。なお、根拠となる統計データや当事者の声などがあれば、それも示してください。
- 「⑥事業目的」欄は、事業を通じて実現したいこと、目指す将来的な姿(社会、経済、生活、環境等)について、「⑤現状と課題」、受益者(対象者)等を踏まえて記入してください。
- 「⑦事業内容」欄は、課題解決や事業目的における位置づけ(狙い)とともに、内容、受益者(対象者)、実施地域、実施方法などを事業項目ごとに具体的に記入してください。また、天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応(代替案の検討、事業縮小、事業中止等)についても併せて記入してください。なお、事業項目数は適宜追加いただいて構いません。
- 「⑧事業条件及びアピールポイント」欄は、事業条件としている広域性又は先進性、先駆性と協働による相乗効果に関すること、団体の持つ専門性やノウハウ等のアピールポイントについて具体的に記入してください。なお、先進性、先駆性は、他地域での先進例や成功例等もあれば、それも参考として記入してください。
- 「⑨今年度に期待される成果・効果」欄は、事業実施により得られる今年度の利益や変化等について記入し、「⑩将来的に期待される成果・効果」欄は、事業を継続して行うことで、将来的に得られる利益や変化等について記入してください。
- 「⑪今年度の成果目標と評価指標」欄は、今年度事業で目指すところ(短期の成果目標)を個別・具体的に3つ程度記入するとともに、事業を評価するための指標と、実施前(現状)と実施後(目標)の数値を記入してください。また、事業を継続される場合は、翌年度若しくは数年後(目標)の数値も参考として記入をお願いします。なお、具体的な数値が得られないもの(定性評価)についても、「何割程度の回答が得られる」などのように、できるだけ数値化し、状態がどう変化したのかを測れるように努力してください。
- 「⑫中・長期的な目標」欄は、事業を継続、段階的に拡充するなどし、中・長期的に目指すところ(中長期の成果目標)について、具体的に記入してください。
- 「⑬事業展開の予定」欄は、「⑤の事業目的」や「⑫中・長期的な目標」を踏まえ、翌年度以降に実施する予定の事業内容、組織体制、財源確保の手法、事業継続の工夫等について記入してください。
- 「⑭想定される役割分担」欄は、提案団体が果たそうとする役割、備中県民局やその他の連携・協力団体に期待する役割を「⑧事業の条件、アピールポイント」を踏まえ、それぞれ具体的に記入してください。
- 記入箇所が不足する場合は、必要に応じて行挿入等を行ってください。

【記入する項目の関係図】



事業日程計画表

年月	事業内容	場所	規模等
	【産地若者会議】		
2022.4	産地若者会議参加者募集		10名程度
2022.5	産地若者会議参加者募集		10名程度
2022.6	産地若者会議参加者募集		10名程度
2022.7	第1回『産地若者会議』開催 ・懇親 ・年間目標/スケジュール確認 ・テーマ/講師選定(第8-9回)	西原屋旅館 umibe (倉敷市児島田の口)	参加者10名
	第2回『産地若者会議』開催 ・テーマ: ファッションと循環 講師: 造形構想・峯村昇吾氏	西原屋旅館 umibe (倉敷市児島田の口)	参加者10名
2022.8	第3回『産地若者会議』開催 ・参加者同士の企業紹介プレゼン ・CCP デニム製品企画	西原屋旅館 umibe (倉敷市児島田の口)	参加者10名
2022.9	第4回『産地若者会議』開催 ・CCP デニム製品企画 ・CCP 合同お披露目会準備	西原屋旅館 umibe (倉敷市児島田の口)	参加者10名
2022.10	第5回『産地若者会議』開催 ・CCP デニム製品企画 ・CCP 合同お披露目会準備	西原屋旅館 umibe (倉敷市児島田の口)	参加者10名
2022.11	第6回『産地若者会議』開催 ・産地サミット振り返り ・CCP デニム製品 PR 会議	西原屋旅館 umibe (倉敷市児島田の口)	参加者10名
2022.12	第7回『産地若者会議』開催 ・テーマ: サーキュラーエコノミー 講師: 安井昭博氏 ・CCP デニム製品 PR 会議	西原屋旅館 umibe (倉敷市児島田の口)	参加者10名
2023.1	第8回『産地若者会議』開催 ・テーマ: 未定 (産地若者会議メンバーで決定) ・CCP 合同お披露目会準備	西原屋旅館 umibe (倉敷市児島田の口)	参加者10名
2023.2	第9回『産地若者会議』開催 ・テーマ: 未定 (産地若者会議メンバーで決定)	西原屋旅館 umibe (倉敷市児島田の口)	参加者10名

	<ul style="list-style-type: none"> ・ CCP 合同お披露目会準備 		
	第10回『産地若者会議』開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間振り返り ・ 最終評価レポート提出 	西原屋旅館 umibe (倉敷市児島田の口)	参加者 10 名
	【サーキュラーコットンシステム】		
2022.4	デニム回収拠点開拓 サーキュラーコットンプロジェクト (CCP) 参加企業募集	備中地域を中心に全国 備中地域	10-15 拠点 3 社 + 若者会議
2022.5	デニム回収拠点開拓 デニム回収 BOX 製作 CCP 参加企業募集	備中地域を中心に全国 備中地域	10-15 拠点 3 社目標
2022.6	デニム回収実施準備/PR デニム回収 BOX 製作		
2022.7	デニム回収実施準備/PR デニム回収 BOX 製作 デニム回収実施/PR	各回収拠点	計 30 拠点
2022.8	デニム回収実施/PR	各回収拠点	計 30 拠点
2022.9	デニム回収実施/PR	各回収拠点	計 30 拠点
2022.10	デニム選別作業 (5 日間) →反毛・紡績工程へ送る		参加者 3 名
2022.11	CCP リサイクル糸紡績/織布		
2022.12	CCP 産地若者会議、サンプル製作 CCP 協賛企業、製品製作		3 社
2023.1	CCP 産地若者会議、サンプル製作 CCP 協賛企業、製品製作		3 社
2023.2	合同お披露目会 <ul style="list-style-type: none"> ・ CCP 製品展示 ・ CCP 取り組み紹介 ・ 産地サミット 	会場未定	50 名程度

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください（例：〇〇市文化センター、△△市内）。不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」欄は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。